ほどがやボラセンだより

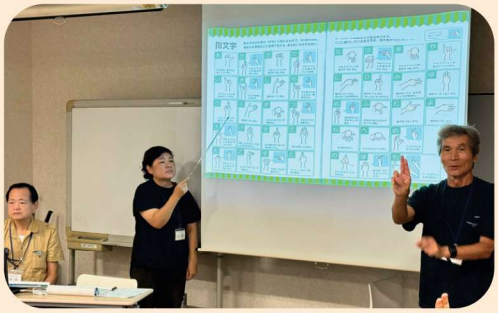
2026年秋号



発行元：保土ケ谷区社会福祉協議会　ボランティアセンター

手話入門講座

9月から手話入門講座を開催中です！



初回は、横浜国立大学教育学部准教授の雁丸新一先生より、聴覚障がいについてのお話と手話の基本を教えていただきました。

また2回目以降の講座では、保土ケ谷区聴覚障害者協会と、手話サークルもみじ会、ほしの会、さくらの会のメンバーの皆さんの指導のもと、あいさつや日常会話で使う基本的な手話を学んでいます。



ちょこっと豆知識

～雁丸先生から学んだこと～



① ドラマで見る手話表現がすべてではない!?

→ドラマでは手話のみで会話する場面も多く見受けられますが、聴覚障がいの程度や失聴した時期によっては、声を出しながら手話を使う人もいるそうです。

② 筆談はすべての聴覚障がい者にとってのコミュニケーション手段ではない!?



→筆談が苦手な人もいる

生まれつき耳が聞こえない人の中には、手話を第一言語としている人もおり、筆談だけでは十分な意思疎通ができないことがあります。聴覚障がいのある人の筆談などによるコミュニケーションは、日本語（音声言語）にどの程度触れ、習得してきたかによって大きく異なるそうです。

③ 手話は世界共通じゃない!?



→英語や韓国語などそれぞれ異なる言語があるように、手話も国や地域によって異なります！

ちなみに、日本語（音声言語）に方言があるように、手話にも地域によって表現が異なるものもあるそうです。

手話を覚えてみよう！



ありがとう

左手の甲から右手をタテに垂直に上げる。



「ありがとう」の手話は、相撲で勝った力士が賞金を受け取るときに行う手刀のしぐさが由来とされています。

保土ケ谷区ボランティアセンター

保土ケ谷区川辺町5-11 かるがも3F

月曜～土曜／9：00～17：00

窓口 または ☎ 045-332-2412　✉ v@shakyohodogaya.jp

インスタフォロー
おねがいします！

HODOGAYA_VOLUNTEER_CENTER

～ボランティアさんの活動報告～

はなかご

地域作業所「第1・第2はなかご」で、活躍しているボランティアさんの様子をご紹介します。

作業所での一日は、朝10時の手話を交えた朝礼から始まります。はなかごでは、約３０名ほどのメンバーさんが、午前と午後に分かれてさまざまな仕事に取り組んでいます。

喫茶コーナーの運営や自主製品づくりに加え、区役所から依頼された封入作業や外部から請け負った使用済み切手の整理など、ボランティアさんはそれらを多岐に渡ってサポートしています。

また、メンバーさんの希望に応じて、一緒に編み物を楽しむこともあります。完成した作品は区役所のスマイルガーデンや地域のバザーで販売されています。



手話を通じて情報共有を支援し、聞こえる人と聞こえない人をつなぐ架け橋となることを目指して活動を続けています。活動を通じて地域の方々や多くの仲間と出会えたことは、私にとって大切な宝物です。

はなかご設立以来 26年間活動中の勝木さん



ボールペンの組み立て作業の様子

メンバーさんがボランティアさんに気軽に話しかけたり、悩みを相談したりする場面も見られ、ボランティアさんが慕われている様子が伝わってきました😊

ランチタイムは利用者さんと一緒に、第1はなかごで過ごすこともあり、いつもおしゃべりが弾みます♪



約3年前から活動中の菅野さん

かわしまホーム

特別養護老人ホームの秋のイベント（花火大会・運動会）では、大学生を含む9名のボランティアさんが大活躍でした。

9月の花火大会では車椅子の移動や飲食物の運搬などを、10月の運動会は玉入れなど競技の手伝いをしてくださいました。

入居者の皆さんやご家族との交流を通じて、多くの学びを得ることができました。小雨の降る中での花火でしたが、とてもきれいでした。



運動会のお手伝いの様子

職員の皆さんが日頃どのような思いで利用者さんを支え、業務に取り組まれているのかを知る貴重な機会となりました。

ボランティア活動を通じて福祉施設を身近に感じていただけました。



花火大会のお手伝いの様子

わだ・かま食堂

和田・釜台地区のこども食堂では、高校生ボランティアが地域の活動を支えています。初めは緊張しながらのスタートでしたが、ベテランのボランティアさんのサポートを受けながら経験を積み重ね、今では親しみやすいお姉さんとして、子どもたち一人ひとりに優しく寄り添う存在です。

子どもを中心に地域の皆さんが気軽に集まって来る食堂です。優しいボランティアの皆さんが笑顔で迎えてくれます💛

